

「本当の生活」

亀井 俊哉

私は18歳の時から尺八を習っています。それからもう40年を超え、長年師事してきた師匠も一昨年亡くなりました。その師匠との思い出はたくさんありますが、私が21歳で指南免許をとった時に、「早く弟子を取って教えなさい。弟子は必ず貴方の真似をするだろうから、弟子の演奏を聴いて自らの悪いところを直しなさい」と言われました。

これはあくまで芸の道の話ですから、仏さまの教えを学ぶこととは重ならないことも多いのですが、自らの姿が映し出される事によって身の事実が知らされるという点では、通じるものがあると思っています。私も今までに多くの弟子を育成してきましたが、知らず知らずのうちに、同じ事を弟子に語っていたようです。

善導大師のお言葉に、「^{きょうきょう}経教はこれを^{たと}喩うるに鏡の^{ごと}如し」とあります。私どもの日常では鏡に自分の顔や姿を映し出して身だしなみを整えることはありますが、仏法聴聞を通して自らの^あ在りようが映し出されていくという世界には、なかなか身を置くことはできないものです。しかしながら、^あ敢えて申し上げておきたいのは、自らの在りようが映し出されていく事を通してのみ、本当の生活が始まるのではないか、と思うのです。